

論文の内容の要旨

氏名： 木下 義文

博士の専攻分野の名称：博士（総合社会文化）

論文題名： 中小ファミリー企業における国際展開の課題と対策

1. 研究の目的と動機

本研究の目的は、中小企業の国際展開における成功のための要件と課題をファミリービジネスの視点から考察し、課題に対する対策を提言することである。競争優位を構築し持続させていくため、即ち持続的競争優位を確立するために、戦略として国際展開を選択した中小ファミリー企業の事例を通して、中小ファミリー企業の国際展開成功の要件を探るとともに、中小ファミリー企業が直面する課題を明らかにし、その対策を提言することである。

長期にわたるデフレから脱却し、日本経済を再生するために、①大胆な金融政策、②機動的な財政政策、③民間投資を喚起する成長戦略を「三本の矢」とする経済政策が、第二次安倍政権の下で展開されることとなった。「三本の矢」のうちの成長戦略については、「日本再興戦略～JAPAN is BACK～」として、2013年6月に閣議決定された。日本再興戦略に盛り込まれた成長目標には、中小企業・小規模事業者の革新のための目標として「今後5年間で新たに1万社の海外展開を実現する」ことや、海外市場獲得のための戦略的取組の目標として「潜在力を持つ中堅・中小企業の輸出額を2020年までに2010年対比2倍にする」ことが掲げられた。わが国の企業数において99.7%、従業者数において66%、製造業における付加価値において50.6%を占める中小企業は、わが国経済の基盤・ダイナミズムの源泉でもある。

一方、わが国の直接輸出を行っている中小製造業の中小製造業に占める割合は3.7%、小規模事業者については1.5%と非常に低い。このように、政府の経済政策の内容および中小企業の国際展開の現状を見ると、中小企業の国際展開の余地は残されており、今後盛んになってくるものと思われる。

そして、中小企業の大半はファミリービジネスである。したがって、筆者は、中小企業の国際展開における課題およびその対策を考える時、中小企業を中小ファミリー企業と捉えて考察していく必要があると考えている。中小企業の国際化・グローバル化に関するわが国の先行研究も近年増えてきたが、ファミリー企業の視点で捉えた研究はほとんど無い。ファミリービジネス研究で蓄積されてきた知見を中小企業の国際展開の対策に活かしていく必要性を感じるのである。

筆者は、長年銀行員として外国為替業務、中小企業の国際展開支援業務に従事してきた。そこで遭遇してきたことを理論的、体系的に整理することで、今後ますます増加してくるであろう、中小ファミリー企業の国際展開に役立つ提言ができるのではないかと考えた。中小企業であること、ファミリー企業であることが、大企業や非ファミリー企業とは違った課題を持ち、その対策も違ったものになると考える。

ファミリービジネスの国際化研究はファミリービジネス研究の中でもまだ少なく、特に日本において当てはまる。中小企業を中小ファミリー企業として捉え、中小ファミリー企業の国際展開成功のための要件と課題およびその対策をファミリービジネスの視点に立ち、明らかにすることが、本研究の意義である。ファミリービジネスの国際展開に関する研究は、まだ始まったばかりなのである。

2. 仮説

中小ファミリー企業の国際展開において、成功のための要件と課題克服のための術について、何か共通する解を見つけ出すことができれば、国際展開を志向する中小ファミリー企業の課題解決のための対策を提示することができるであろう。それでは、成功のための要件と課題克服の術とは、いったい何のか。筆者は、①ビジョンの徹底、②独自の製品・サービスの確立、③人材育成と事業の承継、④ステークホルダーとの関係構築が、成功のために必要な条件であると仮説を立てた。

3. 研究の方法

研究の方法は事例研究である。事例企業が、自身の持つ内部資源をいかに活用し国際展開を進めているか、J・B・バーニーのVRIOフレームワークと、D・ミラー & I・L・B＝ミラーの「四つのC」に従い整理を行い、仮説を検証し、中小ファミリー企業の国際展開成功の要因と成功のための課題を明らかにする。

4. 論文の構成

本稿の構成は以下の通りである。

序章

1. 研究の目的と動機
2. 仮説
3. 先行研究
4. 研究の方法
5. 用語の定義
6. 論文の構成

第1章 先行研究

- 第1節 ファミリービジネスに関する研究
- 第2節 老舗企業・長寿企業に関する研究
- 第3節 企業戦略・国際化に関する研究

第2章 研究の方法

- 第1節 VRIO フレームワーク
- 第2節 「四つのC」モデル

第3章 中小企業の国際展開

- 第1節 中小企業の国際展開の現状
- 第2節 中小企業の国際展開の動機
- 第3節 中小企業の国際展開の課題
- 第4節 中小企業の国際展開からの撤退
- 第5節 中小企業の国際展開支援サービスの活用状況

第4章 中小ファミリー企業国際展開の事例

- 第1節 林総事株式会社の事例
- 第2節 株式会社南武の事例
- 第3節 本多機工株式会社の事例
- 第4節 有限会社石橋屋の事例
- 第5節 有限会社佐藤養助商店の事例

第5章 事例企業の VRIO フレームワーク・「四つのC」モデルからの考察

- 第1節 林総事株式会社についての考察
- 第2節 株式会社南武についての考察
- 第3節 本多機工株式会社についての考察
- 第4節 有限会社石橋屋についての考察
- 第5節 有限会社佐藤養助商店についての考察

第6章 中小ファミリー企業における国際展開成功の要件～仮説の検証～

- 第1節 ビジョンの徹底
- 第2節 独自の製品・サービスの確立
- 第3節 人材育成と事業の承継
- 第4節 ステークホルダーとの関係構築
- 第5節 仮説設定段階で想定していなかった成功要件
- 第6節 ドイツの中堅・中小企業との比較

第7章 中小ファミリー企業における国際展開の課題と対策

終章 むすびに代えて

第1章においては、先行研究のレビューを行い、本研究のテーマである中小ファミリー企業の国際展開に関連する理論およびモデルを整理する。

第1節のファミリービジネスに関する研究では、①ファミリービジネスの定義、②ファミリービジネスの主要モデル、③ファミリービジネス研究の根拠となる主な理論、④ファミリービジネスの特徴、優位性、永続性、⑤ファミリービジネスの強みと弱み、⑥ファミリービジネスの国際化に関する研究の6つの項目を設けた。これまでのファミリービジネス研究の成果を踏まえて確立された主要なモデルと、ファミリー

ビジネス研究の切り口・根拠となっている主な理論について概観する。また、ファミリー企業の特徴、優位性、永続性について整理する。さらに、ファミリー企業の国際化に関する研究の現状について、海外の研究動向を踏まえて述べる。

第2節の老舗企業・長寿企業に関する研究では、それらの研究成果を踏まえ、企業の永続性、長寿性の要因について考察する。老舗企業の多くはファミリー企業でもあり、環境変化を乗り越え、好業績を維持し、永く存続している企業に見られる特徴、長寿のための条件を探る。

第3節の企業戦略・国際化に関する研究では、①アンゾフの成長ベクトル、②ヴァーノンのPLC理論、③ダニングの国際展開発展モデル、④パートレット & ゴシヤールのI-Rグリッドを取り上げる。これらの理論・モデルは大企業、多国籍企業の研究から生まれた理論であり、中小企業研究にそのまま適用できない場合もあるが、代表的なモデルとしてレビューする。

第2章においては、本研究で事例企業の分析フレームワークに援用したVRIOフレームワークと「四つのC」モデルについて整理する。事例企業の持つ経営資源・ケイパビリティの持続的競争優位の分析ツールとして、さらに事例企業の行う国際戦略自体の持続的競争優位を検討するツールとしてのVRIOフレームワークを整理する。また、事例企業が長期にわたる競争優位を維持し、永続性を示している条件として「四つのC」を備えているか考察する。また、なぜ「四つのC」を援用するのか、その理由も述べる。

第3章においては、中小企業の国際展開について整理する。第1節から第5節にわたり、中小企業庁の「中小企業白書」、中小企業基盤整備機構の「中小企業海外事業活動実態調査」、経済産業省の「通商白書」、日本貿易振興機構の「ジェトロ世界貿易投資報告」ほか、金融機関および金融機関系シンクタンクの調査に基づき、中小企業の国際展開の現状、動機、課題、国際展開からの撤退の理由・課題、国際展開支援サービスの活用状況を考察する。

第4章においては、事例企業5社について、それぞれの企業の概要と国際展開の内容について記述する。当該企業のホームページ、新聞・雑誌の記事、書籍、日本貿易振興機構や中小企業基盤整備機構の事例集などの公開情報に基づいて整理し、記述する。

第5章では、第4章で記述された内容をVRIOフレームワークと「四つのC」を使って整理し、それぞれの事例企業および事例企業の国際展開に見られる持続的競争優位の源泉を探る。

第6章では、第5章で整理された持続的競争優位の源泉から仮説の検証を行う。①ビジョンの徹底、②独自の製品・サービスの確立、③人材育成と事業の承継、④ステークホルダーとの関係構築が中小ファミリー企業の国際展開を持続的な成功に導く要件である、という仮説の検証である。また、仮説設定段階で想定していなかった成功要件についても述べる。具体的には、①外部支援サービスの活用、②ブランドの構築、③国際展開を通じた自社のケイパビリティの向上の3つである。さらに、国際展開を積極的に進めながらドイツ経済を牽引していると言われるドイツの中堅・中小企業との比較を行う。

第7章においては、以上、本稿の研究を踏まえて明らかになった課題を整理し、その対策を提言する。中小ファミリー企業の持つ内部資源は大企業対比劣性であるように見られるが、事例企業はニッチな分野で独自の技術を活かした商品・サービスで持続的競争優位を確立している。また、国際展開における人材不足、情報不足といった課題に対しても、事例企業は本研究で明らかにしてきた国際展開を持続的な成功に導く要件を備え、具現化している。それらの点をまとめ、課題に対する対策として提言する。

終章では結びに代えて本研究の含意と残された研究課題について述べる。

以上